

しらほさおねたばるどうけっいせき  
国指定史跡 白保竿根田原洞穴遺跡



遺跡全景



遺跡見学会

### 国指定史跡 白保竿根田原遺跡の概要

石垣島の東側に位置する、旧石器時代(約 2 万 8000 年前)から近世(約 300 年前)までの洞穴遺跡で、遺跡は南ぬ島石垣空港内に現地保存されています。これまで八重山諸島では、下田原期(約 4000 年~3500 年前)を最古の文化としていましたが、白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査により、旧石器時代に位置づけられる化石人骨の破片が約 1100 点、約 20 人分も出土しており、当時の石垣島に人類が渡っていたことがわかりました。その中でも、約 2 万 7000 年前の 4 号人骨が、人体の※解剖学的な位置関係を保った状態で発掘されたこと等から、洞穴は旧石器時代の墓地として利用されたと考えられています。これは、**墓地としては国内最古の事例**となっています。

その他、完新世初期(約 9000 年前)の土器や石器、食べるために石器で解体した傷が残るイノシシの骨、下田原期の土器や石器、牙製品、※崖葬墓、中森期(約 500 年前)の炉跡や中国・タイ産陶磁器、土器などが確認されており、長期間にわたって洞穴が利用されていたことがわかっています。

本遺跡は、これまで明らかでなかった完新世初期から下田原期とも合わせて、葬制の長い歴史的変遷を具体的に辿ることを可能にしたことや、人骨そのものから得られる年代学的、遺伝学的、形質人類学的な意義を有していることから、令和 2 年 3 月 10 日に国指定史跡となりました。

#### 用語解説

##### ●解剖学的な位置関係

動物が生きている時、骨が関節でつながっていることで生じる、骨同士の位置関係。白骨化した骨が、この位置関係を保っている場合、遺骸の姿勢がわかる。また、他の場所から流れ込んだものでないことも推定できる。

##### ●がいそうぼ崖葬墓

崖の中腹にある岩陰を利用した墓地。

